

# 校内研究だより

町田市立金井小学校  
2018年11月12日  
研究推進部

5年生の国語の研究授業では、私たちが日頃の授業の中で意識していきたい大事なポイントが明確になりました。講師の清水先生からは、対話とは、「教材との対話・仲間との対話・自分との対話」であり、それは出会いであると教わりました。子供に考えさせるための発問を考えていくことを目指して、同時に子供の発想を広げるために、教員も広い知識と経験が大事であるをご指導いただきました。

子供の姿	教師の指導	その他・共有したいこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>大造じいさんの気持ちをよく考えてワークシートいっぱい書いて良かった。(3)</li> <li>子供たちは、友達の意見や音読をよく聞いていて、良さや違いを感じとっていた。</li> <li>子供たちが落ちついていると感じた。</li> <li>他の子の発表にすぐ感想が出ていた。</li> <li>発表を恥ずかしがる傾向はあるが、いざしてみるとどの子も実は言いたいのでは？と感じた。</li> <li>グループでの発表は、多様な考えに触れられた。</li> <li>明るく、元気、笑いの多い朗らかな雰囲気だった。</li> <li>2人が同時に音読しても違いを一生懸命につかもうとしていた。</li> <li>「書く・考える・読む」の活動を区別していた。</li> <li>先生の指示や説明をよく聞いてパッと活動を切り替える雰囲気が良いと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無駄な言葉すいぶん削られて発問がすっきりしていた。</li> <li>書けない子にワークシートを見直すよう助言していた。</li> <li>先生が明るい雰囲気で授業を進めようとしていたのが伝わってきた。(3)でも空気をつくって臨みたい。</li> <li>授業の始まりから笑顔で和やかな雰囲気でした。</li> <li>先生のおだやかな雰囲気が子供にとっては、意見を言いやすくしていいと思う。</li> <li>子供の意見に対して「そうだね。なるほど。」と優しい言葉で相づちをうつので安心して発表できた。</li> <li>4の場面の叙述を押さえていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス全体の雰囲気はあたたかい。先生が毎日日記をしっかり読み返事をかいている。(心をこめて)ことがあたたかい関係性を作っているのだと感じました。</li> <li>教材研究や学ぶ姿勢</li> <li>一つの教材にかける力、日々の準備は、できないが大切にしていきたい。</li> <li>いろいろなことを悩みつつも、一つの教材、クラスの子ども達と向き合っていたのは、次への一歩になると思います。</li> <li>毎回同じ形式のワークシートで学習しやすい。</li> <li>毎時間まとめて綴じていて振り返られるのはとても良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>最初の方に、まずセリフだけでも全員に音読させないと、読み方の変化が分からないのでは？</li> <li>児童の発表は、対教師ではなく、子ども達みんなの方に向かって発表させる。</li> <li>自分の考えが意見交流で深まったら、ワークシートに切り替えてはどうか。</li> <li>グループ交流というより、自分の意見をただ伝えるだけのグループもあった。(5)</li> <li>グループ交流の目的を子ども達は分かっていたのか。</li> <li>気持ちを考えるとは？セリフなのか、本文から読み取れるものなのか。抜き出しなのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>板書の吹き出しの中は、教師が書くか、子供かグループの代表が書いて貼るのでもいいのでは？(5)</b></li> <li>指示は変えないで教師の意図を変えろ。</li> <li>発問が軽い。叙述や今までの学習への繋がりなど考えさせ発問する。</li> <li>残雪の気高さ、ガンの頭領としての誇りを前時までに押さえたい。ペットという感覚では無いはず。</li> <li>大造じいさんの気持ちで押さえたかったことは何か。言葉に置き換えないと残らないので、板書に書く。</li> <li><b>教師の「良かった」とは、何が良かったのか分からない。評価を明確にすると良い(3)</b></li> <li><b>音読させるときは一人ずつ。(5)</b></li> <li>特別支援的に突然の指名に苦手な子はドキドキする。</li> <li>「班の形にして聞き合いましょう」ねらい、目的は何か。何のためにどう伝えればよいのか。(友達と違っていてもいい。同じ所はどこか。違いは何か？探しなが聞き合いましょう)(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>叙述に基づいて読み、考えることが大切なので本文に立ち戻れるといいと思う。(5)</b></li> <li>前者との繋がり、ゴールイメージ、同士としての間柄など根拠をもたせる。</li> <li>気持ちを考える→全体交流でしっかり価値付けをして→音読のポイント押さえる。</li> <li>考えを広げたり、深めたりするには話し合いの観点を絞らないと全体のものとして共有しにくい。</li> <li>何のための音読なのか？音読で気持ちの理解を表現することも、見取ることも難しい。</li> <li>指導案の書き方について。指導上の留意点は、教師が活動を深めるための手立てを書く。</li> <li>めあてにある、この場面での見方の広がりとは？</li> <li>全体交流では、主な意見だけでも<b>板書した方</b>が振り返りで役立つ。(3)</li> </ul>

## 研究授業 協議会 5年生より

◆単元のゴールは何か？→「この物語の魅力を伝えよう」【伝え合い】

- ・大造じいさんの気持ちの変化
- ・ガンがまるで人間の様な感情を表現しているところ。
- ・情景の美しさ

◆研究授業を通しての学び

- ① 児童の実態、教材観、単元計画など指導案の書き方。
- ② 指導書通りでも上手くいかないと分かる。
- ③ ワークシートの形は他クラスでの授業をしながら変化していった。
- ④ 大造じいさんの感情の変化を読み取る授業展開を2本立てて進めてきたことで、伝え合いの観点が分かってきた。
- ⑤ 自分がいかにしゃべりすぎているかが、模擬授業を通して分かった。

◆指導講評より

自分のクラスに合った授業、目の前の子供に合ったやり方を考えていくことが大事である。いい授業というのは、自分のスタイル型の形成されていること。人が良いというものをやっても目の前の児童の実態やクラスが違えば、方法や展開の仕方など変わってくるものである。

教師は、子供たちをつないであげる役目をすると考えたとよい。入ろうとせず、発信されたものを拾い上げ、広げるようにするためには聞き合いができること。また、交流、発表の必然性をもたせると良い。何のためにするのか。発表して、どうするのが子供たちがしっかり把握していることが大切。

【個の時間は、自分の考えをもつ、書く】

【教師は机間巡視で、子供の考えを拾い上げる準備を】

【グループ交流で意見を伝えやすい雰囲気をつくる】



大造じいさんの気持ちを考えて、それぞれなりにきってガンを見送るように音読する。



全体発表では、友達の音読の違いに気付く。声の強弱、速さの違い。～な気持ちが出ていた。など言葉で伝えることを大切にしている。